



キュウリは大変なのです



キュウリは生長が非常に早く、普通は開花から1週間ほどで収穫サイズになりますが、ピークでは朝小さかったのが夕方には収穫サイズになることもあるほど、あっという間に大きくなります。一方で気温や日照が足りないとなかなか大きくなりません。まるで気分屋のような生長具合から収量の先読みが大変難しい野菜なのです。



キュウリは根が浅いので乾燥にも多湿にも弱いのが特徴。湿度が高くお日様が出ないと、病気が発生し、気温が高すぎると生育が止まります。水分不足では曲がりが多くなり、豊作が続くと樹勢が落ちて急に実がなくなるなど、波がとて大きいのです。それでも夏はやっぱり食べたくなる人気野菜です。

★日量20袋～100袋まで激変する気分屋

春野菜も終わり、夏野菜のシーズンに入りました。今年は3月から気温が高く全体的に野菜の生長が前進するかと思いきや、地温は上がりず人参は出だしは小ぶり、実野菜もなかなか収量が上がりません。

例えばピーマンは本来は週を追うごとに収量が増えていくのですが、今年はまだ大口はお受け出来ない状態です。特にキュウリは日によって収量が激変する野菜なので、お客様も事務も生産者もみんなやりくりが大変です。毎年この時期、「キュウリはジェットコースターのように収量がアップダウンするので、当日欠品もあり得ますよ」とお伝えしているのですが、それでもお客様からは「困るんです」と言われます。

しかし、先週の『産地の声』で高柳場長が書いている通り「それでも採れないものは採れないんだ。天候だけはどうにもならない」というのが成り物の特徴なのです。特にキュウリは瑞々しくこの時期は誰もが食べたい野菜。ただ1日で300本以上採れる日もあれば、1日60本しか採れない日もあるのです。「しょうがないんだなあ！工業製品ならいざ知らず、天候相手であり生き物は調整がきかないんだ」

お客様も困っているでしょうが、毎日、注文と出荷数の調整でやきもきしている生産者も大変です。その大変さで誰もが出荷をやりたがらないほど。それでも作り続ける理由は「やっぱり夏はキュウリが食べたくなるだろ？」。あのポリっとした食感と瑞々しさを届けるために頑張っています。